



フィールドで子どもたちと。



ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

Vickyの見た日本と、南スーダンの課題

アシスト南スーダン!

今、世界でもっとも多くの国内避難民・難民を抱える南スーダン。その現状が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られている。未知の国・南スーダンで何が起り、今どうなっているのか? タウトク編集部では、NGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動が続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、南スーダンが抱える問題を少しずつひもとく、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円を、南スーダンをはじめアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!



世界各地で支援活動が続けるスタッフからの「現地活動ルポ」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました! 左のQRコードからアクセスしてみ! <http://www.peace-winds.org/m/>

タウトクでは毎月、南スーダンの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額=タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク2月号の販売部数
5,809部×3円=17,427円

を支援金としてPWJを通じ南スーダンの国内避難民・難民支援事業に送りました。

ご利用明細票	
お取組日	16年2月11日
お取組品	タウトク2月号
お取組金額	17,427円
お取組手数料	0円
お取組合計	17,427円
お取組先	peace winds JAPAN
お取組先住所	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
お取組先電話番号	03-5561-1111
お取組先メールアドレス	info@peace-winds.jp
お取組先ウェブサイト	http://www.peace-winds.jp
お取組先代表者	田嶋智子
お取組先役職	代表取締役
お取組先住所	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
お取組先電話番号	03-5561-1111
お取組先メールアドレス	info@peace-winds.jp
お取組先ウェブサイト	http://www.peace-winds.jp
お取組先代表者	田嶋智子
お取組先役職	代表取締役

peace winds JAPAN

月刊タウン情報トクシマ
タウトク
medicomm inc
株式会社メディコム
月刊タウン情報トクシマ編集部

2013年12月に発生した内戦以来、日本人の滞在が難しくなった南スーダン。PWJは、現地NGOのTHESO(テソ、The Health Support Organisationの略)との協働で同国内の支援を続けてきました。今回は、昨年このTHESOに採用された女性エンジニアのVicky Valente(ビッキ バレンテ・29歳)へのインタビューをお届けします。彼女は、今年1月、5日間の日程で開催された国連訓練調査研究所と日本大使館主催の「南スーダンにおけるプロジェクト開発および実施に関する研修プログラム」に参加するため来日しました。



増え続ける国内避難民にキャンプの支援が続きます。

— Vickyは大学を卒業して建築専門家の資格を持っています。貧しい家庭が多く初等教育もままならない南スーダンでは稀なことだと思いますが、豊かな家庭だったのでしょうか。

Vicky いいえ、決して豊かではありません。私は男5人、女5人の10人兄弟で育ちました。父は早くに亡くなってしまったので母は大変苦労しました。でも、上の姉や兄が協力してくれたので学校へ行くことができました。

— 日本での研修はどうでしたか。

Vicky とても勉強になりました。プロジェクトの立ち上げの段階から実施に至るまでのプロセスが本当に良くわかりました。私は将来学校や病院を建設することで子どもたちの助けたいと思っています。この研修で学んだことを生かしたいと思います。



Vickyが監督するキャンプのトイレ建設。

— 日本の印象はどうでしたか。

Vicky 日本は本当に発展していて素晴らしい国です。人もとても親切で感動しました。最も感銘を受けたのは広島市の被爆者のお年寄りから聞いた言葉です。“私たちは許します。でも決して忘れません。”とおっしゃいました。だから日本は平和なのだと思います。南スーダンでは許すという事がありません。私の国では、大人が子どもたちに敵の部族からどんな仕打ちを受けたかを教え、仕返しをするように教えます。ですから戦いはいつまでも終わりません。男たちが戦争をして、苦しむのはいつも女性と子どもです。私は少しでも人々の助けになりたいと思います。THESOに入りました。

— 日本では平和が当たり前。何の努力をしなくても平和は常にそこにあるもの。ともするとその存在すら忘れてしまいそうな平和の有り難さをVickyから教えてもらった気がします。最後に日本食は大丈夫でしたか。

Vicky はい、全部とてもおいしかったです。名前はわからないけれど干した魚は特に美味しかったです。参加した仲間たちも“5日なんて短すぎる。もっと滞在できればいいのに。”と残念がっていました。

笑顔が素敵なVickyでした。PWJの活動は、国内避難民の支援を通して、建国の力となるVickyのような若者の活躍も応援しています。

ナイロビ駐在 田嶋智子



ジュバ事務所で働くVicky Valente。